

■点検・評価について

令和5年度に実施した学校教育推進計画及び生涯学習推進基本計画にある主な施策に対する具体的な取組内容をまとめ、成果を明らかにした上で評価し、今後の方向性を示しています。

■具体的な取組

計画で掲げた方向性に対して、令和5年度で取り組んだ具体的な取組を記載しています。

【基本方針1】 社会で生きる学びの推進

施策1 確かな学力の育成

■具体的な取組

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- (1) 確かな学力を育むための授業改善
 - ・共通取組事項「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づく、授業改善研究委員会による授業公開の実施（年4回）及び授業改善Leafによる情報発信（年3回）を行いました。
 - ・全ての小中学校で指導主事による学校訪問等において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、適切な指導・助言を行いました。
 - ・授業改善研究委員会による授業改善に係る実践的研修会（延べ67人参加）及び市教育研究所による授業改善に係る研修講座（延べ61人参加）を開催しました。
 - ・授業改善研究委員会による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた示範授業をもとに授業改善動画を作成し、Tomatubeにより、全ての教職員がいつでも閲覧できるよう自主研修の枠組みを整えました。



【教員対象「実践的研修講座」】

(2) 実践研究指定校の実践と教職員への研修

- ・小中学校各2校を実践研究指定校に指定し、公開授業や実践成果の発信を行いました。
- ・教育先進地への視察（長野市教育委員会、長野市立北小学校、長野市立北中学校）を実施し、その成果を各学校の研修担当者向け研修会や授業改善に係る校内研修会で情報提供しました。

2 学力向上に向けた検証改善サイクルの確立

- (1) 教育課程の実施状況の評価してその改善を図る検証改善（PDCA）サイクルの実施
 - ・全ての小中学校に対し学校訪問を行い、教育課程改善について指導主事による指導・助言を行いました。
 - ・吉小教市統一学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題の把握及び改善方法の提示を行いました。
 - ・全ての中学校区エリアにおいて、A11-9プランに基づく、特色ある教育活動の推進を行い、目指す資質・能力の育成に向けた小中9年間を見通した指導の充実を図りました。
 - ・学力向上連絡協議会において、各種調査の分析や課題の把握、改善方法について視点を交え、授業改善につなげました。



【小4国語 家庭学習アイデア例】

(2) 家庭学習の取組

- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」で、家庭学習習慣の確立の重要性について発信しました。
- ・吉小教市統一学力検査の結果分析を基に、学年・教科ごとの課題改善に向けて家庭学習において取り組むべき問題や学習の視点を提示し、ホームページ掲載や市のFacebookで情報発信しました。
- ・11月を「親子読書」強調月間として、教育委員会では周知用カットの作成及び活用を依頼

■評価

推進指標を考察、主な評価について記載しています。

■今後の取組

令和5年度の取組から見えた課題から、今後の取組の方向性やねらい等を記載しています。

※小中学校の記載には、義務教育学校（前期課程及び後期課程）を含みます。

■推進指標

各施策の達成状況を把握するための指標です。

※R5策定の計画による指標ですが、社会情勢の変化や学校現場の実情と合わない場合、指標の見直しなど柔軟に対応することとしています。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国以上の教科数（教科）	小 中	0 0	2 2
「話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができている」という質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合（％）	小 中	82.6 79.5	82.5 81.6
「授業以外に1日1時間以上勉強する」と回答した児童生徒の割合（％）	小 中	64.6 65.5	63.4 61.7
「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に対し「10分以上」と回答した児童生徒の割合（％）	小 中	57.3 51.4	58.0 49.4
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を「よく行った」と回答した学校の割合（％）	小 中	47.8 20.0	30.4 20.0

評価

- ・全国学力・学習状況調査において平均正答率が全国以上の教科数は0だったが、中学国語及び数学において前年比で上昇がみられた。
- ・授業以外の学習時間や読書時間などに課題がみられる。
- ・習得・活用及び探究の学習過程を見通し、児童生徒に確実に資質・能力を育成するための単元計画に課題がある。

■今後の取組

- 1 児童生徒の資質・能力を確実に育成できるよう単元全体及び一単位時間における授業改善の方策について各学校への指導・助言を行います。
- 2 吉小教市統一学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、課題のある教科及び領域について、教科横断的な学習を取り入れた改善方法をTomatubeを用いて発信します。
- 3 授業改善ハンドブックを改訂し、全教職員が「吉小教市における授業改善策」について理解し、児童生徒が主体的に学ぶ授業を行えるよう支援します。
- 4 家庭学習の充実及び読書活動の充実に向けて、家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」等で、家庭学習の内容や方法、家庭における読書活動の充実について参考となるような情報提供を行います。

■教職員の主体的な授業改善を促す Tomatube を利用した取組



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために授業を撮影し、解説を加えた研修動画にまとめ、教職員が自分のタイミングで主体的に学べるように編集動画投稿サイト Tomatube で閲覧可能としました。



トピックス

自主研修の様子

■トピックス

令和5年度の取組の中で代表的なものを記載しています。

施策 1

確かな学力の育成

■具体的な取組

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 確かな学力を育むための授業改善

- ・ 共通取組事項「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づく、授業改善研究委員会による授業公開の実施（年4回）及び授業改善 Leaf による情報発信（年3部）を行いました。
- ・ 全ての小中学校で指導主事による学校訪問等において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、適切な指導・助言を行いました。
- ・ 授業改善研究委員による授業改善に係る実践的研修会（延べ67人参加）及び市教育研究所による授業改善に係る研修講座（延べ61人参加）を開催しました。
- ・ 授業改善研究委員による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた示範授業をもとに授業改善動画を作成し、Tomatube により、全ての教職員がいつでも閲覧できるよう自主研修の枠組みを整えました。



【教員対象「実践的研修講座」】

(2) 実践研究指定校の実践と教職員への研修

- ・ 小中学校各2校を実践研究指定校に指定し、公開授業や実践成果の発信を行いました。
- ・ 教育先進地への視察（秦野市教育委員会、秦野市立北小学校、秦野市立北中学校）を実施し、その成果を各学校の研修担当者向け研修会や授業改善に係る校内研修会で情報提供しました。

2 学力向上に向けた検証改善サイクルの確立

(1) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図る検証改善（PDCA）サイクルの充実

- ・ 全ての小中学校に対し学校訪問を行い、教育課程改善について指導主事による指導・助言を行いました。
- ・ 苫小牧市統一学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題の把握及び改善方法の提示を行いました。
- ・ 全ての中学校区エリアにおいて、A11-9 プランに基づく、特色ある教育活動の推進を行い、目指す資質・能力の育成に向けた小中9年間を見通した指導の充実を図りました。
- ・ 学力向上連絡協議会において、各種調査の分析や課題の把握、改善方法について視点を与え、授業改善につなげました。



【小4国語 家庭学習アイデア例】

(2) 家庭学習の取組

- ・ 家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」で、家庭学習習慣の確立の重要性について発信しました。
- ・ 苫小牧市統一学力検査の結果分析を基に、学年・教科ごとの課題改善に向けて家庭学習において取り組むべき問題や学習の視点を提示し、ホームページ掲載や市の Facebook で情報発信しました。
- ・ 11月を「親子読書」強調月間として、教育委員会では周知用カットの作成及び活用の依頼、中央図書館ではレッドイーグルス北海道選手と監督と鷲斗くんおすすめ本のリスト配付、各学校では学校司書による「親子で読みたい本」の展示コーナーづくりなどを行いました。

■推進指標

指 標		R4	R5	目標値
全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国以上の教科数（教科）	小	0	0	2
	中	0	0	2
「話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができている」という質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合（％）	小	82.6	82.5	85
	中	79.5	81.6	85
「授業以外に1日1時間以上勉強する」と回答した児童生徒の割合（％）	小	64.6	63.4	85
	中	65.5	61.7	85
「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対し「10分以上」と回答した児童生徒の割合（％）	小	57.3	58.0	85
	中	51.4	49.4	85
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を「よく行った」と回答した学校の割合（％）	小	47.8	30.4	100
	中	20.0	20.0	100

評価

- ・全国学力・学習状況調査において平均正答率が全国以上の教科数は0だったが、中学国語及び数学において前年比で上昇がみられた。
- ・授業以外の学習時間や読書時間などに課題がみられる。
- ・習得・活用及び探究の学習過程を見通し、児童生徒に確実に資質・能力を育成するための単元計画に課題がある。

■今後の取組

- 1 児童生徒の資質・能力を確実に育成できるよう単元全体及び一単位時間における授業改善の方策について各学校への指導・助言を行います。
- 2 苫小牧市統一学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、課題のある教科及び領域について、教科横断的な学習を取り入れた改善方法をTomatubeを用いて発信します。
- 3 授業改善ハンドブックを改訂し、全教職員が「苫小牧市における授業改善策」について理解し、児童生徒が主体的に学ぶ授業を行えるよう支援します。
- 4 家庭学習の充実及び読書活動の充実に向けて、家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」等で、家庭学習の内容や方法、家庭における読書活動の充実について参考となるような情報提供を行います。

■教職員の主体的な授業改善を促すTomatubeを利用した取組

トピックス



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために授業を撮影し、解説を加えた研修動画にまとめ、全ての教職員が自分のタイミングで主体的に学べるように職員向け動画投稿サイトTomatubeで閲覧可能としました。

校内研修で一斉視聴後に協議を行ったり、教師個々の自己研修として視聴したりと、多様な活用が見られました。



自主研修の様子

施策 2

これからの時代に求められる資質・能力の育成

■具体的な取組

1 ICT活用による個別最適で協働的な学びの実現

(1) 児童生徒の情報活用能力の育成

- ・小中学校各1校をICT活用の実践研究指定校に指定し、タブレット端末を活用した授業実践の公開（12月6日・豊川小学校・参加教員19名）や、研修講座において実践成果の発信を行いました。
- ・ICT活用研究委員会において、タブレット端末の日常的な活用について研究を進め、ICT活用 Leaf による情報発信を校務支援システムの連絡掲示板で行いました。
- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」を作成し、SNS上のトラブル事例、インターネットを使用する際のルールや保護者の役割について発信しました。



【ICT活用 Leaf】

(2) 教員のICTの効果的な活用に向けた取組の充実

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、Microsoft Teams の各種アプリ、Padlet や Miro などのフリーソフトを授業で効果的に活用するための実践的な研修講座（4回実施・参加教員428名）を行いました。
- ・市内4つの小学校において、オンライン上で台湾の小学校とお互いの文化を題材としたクイズや、小グループでの英会話による交流を行いました。

2 外国語教育の充実と国際理解教育の推進

(1) 外国語教育の充実

- ・英語に興味や関心をもち、実践的なコミュニケーション能力の育成を図るため、14名のALTを市内全小中学校に配置しました。
- ・外国語研究委員会による「外国語科における言語活動の充実」に向けた示範授業をもとに、授業改善に係る研修会及び実践的研修講座（参加教員20名）を開催しました。また、CAN-DOリストの有効活用など、評価の改善・充実に関する内容についても研修会で発信しました。

(2) 異文化交流や多様な価値観に触れる機会の創出

- ・ALTを放課後児童クラブや幼稚園へ派遣し、英語による絵本の読み聞かせや歌、ジェスチャーゲームなどを通して、英語に親しむ活動を実施しました。
- （派遣実績 延べ31施設91回 前年度比 3施設28回増）
- ・小学生高学年を対象に、英語への学習意欲向上と国際的な視点を養うことを目的に、英語のみでコミュニケーションを行う、イングリッシュカフェを実施しました。



【ALTによる外国語科の授業】

■推進指標

指 標		R4	R5	目標値
ＩＣＴ機器を活用した授業が「ほぼ毎日」行われたと回答した小中学校の児童生徒の割合（％）		15.7	20.2	85
児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を「ほぼ毎日」使用させていると回答した学校の割合（学校質問紙調査）（％）		7.8	16.4	85
話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができていると回答した児童生徒の割合（％）	小	82.6	82.5	90
	中	79.5	81.6	90
「CAN-DOリスト」の学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合（％）		100	100	100
中学校卒業段階で英検３級以上を取得又は英検３級以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（％）		39.2	50.4	50

評価

- ・ G I G Aスクール構想の３年目で、各学校におけるタブレット等のＩＣＴ活用が進んでいる。
- ・ 英検３級以上と判定される生徒の割合が、前年度を大きく上回る結果となっているが、４技能５領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）のバランスの取れた英語力の育成に向けた各学校の授業改善を推進する必要がある。

■今後の取組

- １ ＩＣＴを活用した実践を市内小中学校に普及するため、授業実践動画を定期的に作成・更新しTomatube で発信していきます。また、本市とＩＣＴ活用先進校との実践交流や視察の成果を踏まえ、授業や校務におけるＩＣＴの更なる活用を図ります。
- ２ 個別最適で協働的な学びの一体化のため、授業におけるＩＣＴ機器の操作・活用方法などの研修講座を引き続き実施するとともに、研究委嘱校からの情報発信を活性化させ、全ての学校に取組内容が波及するように進めていきます。
- ３ 外国語研究委員会による示範授業、研修講座などを通して、ＡＬＴの効果的な活用や、CAN-DOリストを活用した外国語活動・外国語科の授業づくり、授業改善について、実践的な研修を実施します。また、外国語教育推進アドバイザーによるＡＬＴの授業参観や研修を通して、ＡＬＴの資質、能力の育成を図ります。

トピックス

■イングリッシュカフェ ～ 英語を使ってお菓子づくり ～



令和５年１０月１４日に、小学生４～６年生１６人が、本市国際交流員及びＡＬＴと一緒に、英語を使って外国のお菓子「エネルギーボール」づくりを行いました。ハロウィンの飾りや仮装も盛り上がり一役買って、英語にたくさん触れながら、楽しいひと時を過ごすことができました。

施策3

多様な価値を尊重する豊かな心の育成

■具体的な取組

1 道徳教育の推進・人権教育の充実

(1) 学校の教育活動全体を通じた組織的・計画的な道徳教育の推進

- ・全ての小中学校の道徳推進教師を対象とした道徳教育の推進に係る研修会(36名参加)を実施し、道徳教育の重要性や学校全体で行う道徳教育の充実について理解を図りました。

(2) 道徳科の授業改善の取組の推進

- ・授業改善研究委員会による道徳科の授業の充実に係る実践的な研修及び公開授業(年5回)を実施し、道徳科の授業改善を図ることで、児童生徒の自己肯定感の高揚につながりました。
- ・全ての小中学校において、多彩なテーマで「こころの授業」を実施することで、児童生徒が自らの生き方について考え、議論を深める学習活動を推進することができました。



【授業改善研究委員による公開授業】

(3) 人権教育の充実

- ・市教育研究所による教職員向けのジェンダー平等に係る研修講座を開催しました。
- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」で、ジェンダー平等の実現について記事を掲載し、家庭への理解を図りました。
- ・苫小牧型小中連携教育研究実践校で行われた多様性の尊重、ジェンダー平等に係る実践例を好事例として、全教職員に発信しました。

2 いじめ防止の取組の充実

(1) いじめの未然防止の促進

- ・いじめの予防のため、日常の観察や教育相談の充実、定期的なアンケートを実施しました。
- ・いじめ根絶に向けた取組状況を交流する「苫小牧市いじめ問題子どもサミット」を開催し、各学校での児童会・生徒会活動における主体的な取組の充実を図りました。
- ・いじめ問題対策評議員会を開催し、いじめ根絶対策事業等の施策について評価を行い、改善を図りました。

(2) いじめの早期発見・早期対応に向けた生徒指導体制の充実

- ・児童生徒間の「からかい」や「嫌がらせ」なども含め、いじめを積極的に認知し、その解決に向けた学校いじめ対策組織による早期発見・早期対応の徹底を図りました。
- ・教職員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教育相談員等との連携強化によるいじめ対策組織の強化を行いました。
- ・児童生徒が相談しやすい校内体制の整備や「子ども専用悩みごと相談メール・相談電話」のリーフレットを年に2回、全児童生徒に配付することで、相談窓口の周知を図りました。



【【子ども専用悩みごと相談メール・相談電話リーフレット】】

■推進指標

指 標		R4	R5	目標値
「自分には、よいところがあると思う」児童生徒の割合（％）	小	79.6	80.0	85
	中	63.6	78.9	85
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」児童生徒の割合（％）	小	73.9	76.7	85
	中	70.0	75.5	85
「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいる」児童生徒の割合（％）	小	84.8	86.9	90
	中	89.9	92.6	90
男女混合名簿を活用している学校数（校／全37校）		10	16	37
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合（％）	小	97.7	97.9	100
	中	97.2	97.3	100

評価

- ・ 多様な意見をもとに自分の生き方について考える道徳科の授業の実践により、自己有用感や自己肯定感の向上がみられる。
- ・ いじめの未然防止に向け、豊かな心の育成に向けた取組に課題がみられる。

■今後の取組

- 1 児童生徒の心を豊かに耕し、よりよい生き方について考えることができる道徳授業の充実に向け、道徳教育推進に係る知識の習得、指導案作りなどの演習や授業参観、振り返りによるブラッシュアップを一体的に取り組むことができる総合型研修を実施します。
- 2 「こころの授業」では、学校が、福祉関係、性教育、男女協働参画等の幅広い領域から講師を招くことができるように環境を整備します。教職員向け研修講座についても、多様性の理解、ジェンダー平等に係る内容の講座を実施します。
- 3 いじめの早期発見・対応のため、各学校において年2回以上のいじめアンケートを実施するほか、日常的な教育相談や児童生徒の自治力向上に向けた取組推進、生活アンケートなどの複数回実施により、児童生徒の実態把握を行います。

トピックス

■苦小牧市いじめ問題子どもサミット



生徒が発表している様子

子どもたちが、自分たちの学校で取り組んでいるいじめの未然防止に係る児童会・生徒会活動について、それぞれオンラインで発表しました。サミットを開催することで、児童生徒が主体的にいじめ問題について考え、多様な他者を認め、思いやる心の醸成を図ることができました。

令和6年度は、現在取り組んでいる児童会・生徒会活動だけでなく、より一層効果的な活動について話し合い、学んだ子どもたちがさらに主体的にいじめ問題についてじっくりと考え、行動につなげられるサミットになるよう計画しています。

施策 4

体力向上・健康教育の充実

■具体的な取組

1 学校における体力・運動能力向上の取組の推進

(1) 運動機会の提供等による運動習慣の定着

- ・全ての学校で子どもたちが目標をもって積極的に運動するよう、体力向上に向けて新体力テストを実施しました。
- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」で、家族で取り組める運動を紹介し、家庭と連携した取組を進めました。



【教員対象「体力向上研修講座」】

(2) 運動することが好きな子どもたちの育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実

- ・教職員向け研修講座において、「体力向上」に関する講座（37名参加）を開催し、各小・中学校における体育の授業改善を推進しました。
- ・体育専科及びエキスパート教員による巡回指導を小学校8校で実施し、指導法の工夫等に係る指導・助言を行いました。

2 食育の推進など学校、家庭、地域が連携・協働した生活習慣の確立

(1) 健康・安全・食に関する資質・能力（健康リテラシー等）の育成

- ・全国体力、運動能力、運動習慣等調査等の調査結果を分析し、子どもたちの生活習慣における課題について、家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」で発信しました。
- ・苫小牧警察署生活安全課と連携し、薬物乱用防止教室をすべての小中学校で実施しました。
- ・栄養教諭による食に関する指導を小中学校で120回実施し、栄養や食事の摂り方等について、計画的な指導を行いました。

(2) 学校給食を通じた食育の推進

- ・学校給食の献立に「市の貝」であるホッキ貝を使用した「ホッキカレー」や「カレーラーメン」を郷土の味として提供しました。



- ・保護者や学校に対して栄養だよりを年3回発行し、児童生徒の食生活の実態や食育月間の取り組み事例などの情報発信を行いました。また、公式Instagramを開設し、地場産物活用のPR、行事食の紹介、調理の様子など、学校給食や食育への理解や関心を深めてもらうため、幅広い世代へ情報発信を行いました。
- ・行事食や中学校3年生に行った「リクエスト給食アンケート」の人気メニューなど、楽しみのある献立を提供しました。
- ・食物アレルギーを有する児童生徒が他の児童生徒と同じように学校給食を楽しめるよう、安全・安心なアレルギー対応食を提供しました。
- ・これまで焼却処理していた給食残渣を有効活用するため、給食残渣を燃料とするバイオガス発電事業所への運搬を開始しました。

■推進指標

指 標		R4	R5	目標値
T得点：体力合計点の全国平均値を 50.0 とした場合の苫小牧市の児童生徒の値(点)	小	51.5	52.6	50 以上
	中	48.0	48.5	50 以上
体育の授業以外で週に総運動時間が 60 分以上と回答した児童生徒の割合 (%)	小	90.7	89.9	95
	中	86.6	76.2	95
中学校 3 年生へのアンケートによる学校給食の満足度 (%)		96	96	100
「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合 (%)	小	92.8	92.7	100
	中	89.9	86.7	100
肥満傾向児の出現率 (%)	小学男子	19.0	19.8	15.0
	小学女子	14.4	13.5	10.0
	中学男子	15.5	13.0	12.0
	中学女子	10.1	8.7	7.5
12 歳児 (中学 1 年) の一人平均むし歯数 (本)		0.72	0.65	0.6

評価

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点はいずれも前年比を上回ったものの、特に中学女子に持久力の種目に課題がみられる。
- ・授業以外の運動時間の確保、生活習慣の改善に家庭の理解と協力が必要である。

■今後の取組

- 1 小学校体育エキスパート教員による巡回指導を小学校 6 校、中学校体育授業実践スペシャリストによるティームティーチング指導を中学校 3 校で実施し、専門的な視点から指導方法の工夫改善等に係る指導・助言を行います。
- 2 新体力テストの実施・結果の分析を行い、明らかになった課題について家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」により改善方法を周知し、家庭や学校と連携しながら運動習慣・生活習慣の確立を行います。
- 3 子どもたちの健康課題の改善に向けて、食の自己管理能力を高めるため、食に関する正しい知識や健全な食習慣を身に付けることができるよう、食に関する指導や栄養だよりによる情報発信、地場産物の活用など、学校、家庭、地域と連携して食育の推進に取り組みます。

トピックス

■苫小牧市×八王子市 給食交流



オンライン交流の様子

苫小牧市と八王子市は令和 5 年 8 月 10 日に姉妹都市提携 50 周年を迎え、これを記念して、給食メニュー交換と給食時間のオンライン交流を行いました。

メニュー交換は、苫小牧市が 8 月に八王子ラーメン、2 月に八王子風セルフナポリタンを提供し、八王子市が 7 月に開拓丼、とまこまいカレーラーメン風スープを提供しました。

オンライン交流は 7 月 20 日と 8 月 31 日に行い、クイズや質問をして交流を図り、お互いの市について理解を深めました。

施策5

特別支援教育の充実

■具体的な取組

1 連続性のある多様な学びの場の整備

(1) 特別支援学級・通級による指導の在籍状況

- ・特別支援学級在籍状況は、小学校が102学級456名（447名）、中学校50学級196名（183名）、通級による指導在籍状況は、小学校536名（509名）、中学校153名（147名）となっており、年々在籍人数が増加し、教育的ニーズに合わせた指導や支援を受けています。 ※（ ）内令和4年度在籍人数

(2) 障がいのある子どもの学びの場の充実

- ・児童生徒の一人一人の教育的ニーズに対応するため、苫小牧市特別支援教育基本方針を策定し、令和5年4月から運用を開始しました。
- ・各学校の実態に応じて、特別支援教育支援員45名（45名）及び介添員28名（26名）を適切に配置しました。 ※（ ）内令和4年度配置人数
- ・特別支援に関わる教職員を対象に計5回の専門性向上研修を令和5年度から行い、教員の資質向上に努めました。



【令和5年度から開始した専門性向上研修の様子】

(3) 切れ目のない一貫した指導や支援の充実

- ・特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の特性に応じて一貫した指導を行えるよう、個別的教育支援計画を活用し、福祉機関や北海道苫小牧支援学校との連携を深めました。
- ・エリアの特別支援教育部会の中で、小・中学校相互の授業参観を行ったり、特別な支援の必要な児童生徒についての情報共有を行ったりすることで、小中の連携を深めました。

2 各学校における特別支援教育の充実

(1) 全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上

- ・子ども支援室「あかり」が主催する研修講座を年6回行い、そのうち2回を通常学級を受け持つ教員にも対象を広げ、オンラインで研修を行いました。
- ・特別支援教育支援員を対象にした研修会を年2回実施し、子どもたち一人一人に合った支援の方策を検討しました。

(2) 特別支援教育研究委員会を中心とした研修の充実

- ・令和5年度から特別支援教育研究委員会を発足し、研修講座では、特別な支援の必要な児童生徒の指導・支援の仕方や校内支援委員会の機能の強化の必要性について、理解を深めました。
- ・通常学級における個別の指導計画の在り方について検討し、実践紹介を行いました。
- ・「交流及び共同学習」について、ねらいを明確にした実践事例を「授業改善Leaf」にまとめ、小中学校にそれぞれ配付、周知しました。



【特別支援教育研究委員会「授業改善Leaf」】

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
特別支援学級と通級による指導の児童生徒の「個別の指導計画」を作成している割合（％）	100	100	100
通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒の「個別の指導計画」を作成している割合（％）	65	40	80
過去５年間に特別支援教育に関する研修を受講した教員の割合（％）	64	56	100
特別支援学校教諭免許状の所有率（特別支援学級担当教員及び通級による指導教員）（％）	46	51	70

評価

- ・通常学級における「個別の指導計画」の作成については、保護者の理解が必要となるため、保護者との連携を深め、合意形成を図っていく必要がある。
- ・研修受講数が減少しているため、指導経験や年数に応じたキャリアアップを図る実践的な研修を増やす。

■今後の取組

- 1 すべての教員を対象とした研修の機会を増やすとともに、個別の支援計画の作成を促進し、通常学級を含めた特別支援教育を推進します。
- 2 令和５年４月から運用されている「苫小牧市特別支援教育基本方針」に基づき、特別支援教育の充実に関する方策を各関係機関と連携しながら推進します。
- 3 各学校や児童生徒のニーズに応じた配置ができるように特別支援教育支援員や介添員の人材確保に向けた工夫を行います。

トピックス

■特別支援教育におけるＩＣＴの活用



特別支援教育において、教科のねらいや個々の実態に応じて各機能を使いながら教科指導の効果を高めたり、例えば自分の考えや要求を言葉で伝えることが難しいという課題のある児童生徒に対して、平仮名を入力して音声出力する学習を行うことなど、障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服したりするために、ＩＣＴの効果的な活用を進めています。

施策6

学校段階間の連携・接続の推進

■具体的な取組

1 Tomakomai All-9 の促進

(1) 発達の段階に応じた系統的な教育活動の充実

- ・ 苫小牧市学校教育力向上連絡協議会において、苫小牧型小中連携教育「Tomakomai All-9」推進基本方針に基づき、確かな学力の定着や豊かな人間性と健康な体の育成等について全校の共通理解を図りました。
- ・ 中学校区のエリアごとに9年間で目指す子ども像を設定し、目指す子ども像の実現に向けて、各エリアにおいて連携計画「Tomakomai All-9 プラン」を作成しました。
- ・ 苫小牧市学校教育力向上連絡協議会、エリア経営会議、各エリア部会（学力向上部会、特別支援教育部会、各エリア独自部会等）を開催し、教育 LAN 等を活用した情報交流及び成果の発信を行いました。

(2) 中学校区でのカリキュラム連携の促進

- ・ 中学校区エリアにおける9年間の連続したカリキュラム連携として、授業規律の見直し、教科指導における連携、総合的な学習の時間の学習内容に関する連携等について、実践事例を還流しました。
- ・ 苫小牧市立開成中学校、苫小牧市立清水小学校が小中連携研究指定校となり取組を進め、その成果を苫小牧市学校教育力向上連絡協議会で報告するとともに、教職員向けリーフレット「小中連携の取組」で発信しました。

2 幼稚園、認定こども園、保育所及び高校等との連携

(1) 園児の体験入学や児童との交流活動の推進と研修等、教員交流機会の拡充

- ・ 令和4年度から実施を開始した「小学校見学会」は、令和5年度34園が参加し、身近な地域の小学校の見学や交流を通して、園児に小学校生活の見通しや期待感を持たせると同時に教員同士の交流につなげました。

(2) 「苫小牧市幼小接続ハンドブック」による幼児教育と小学校教育の接続の強化

- ・ 幼小間のスムーズな接続のため「幼小合同引継ぎ会」を1月に開催し、苫小牧市引継ぎシートを活用し対面での丁寧な引継ぎを実施しました。
- ・ 就学時健診の実施と実施後の教育支援委員会におけるおおぞら園を含めた各園とのきめ細やかな情報共有による実態把握や協議等により、幼小間での学びの連続性や個に応じた適切な指導・支援につなげました。

(3) 子どもの実態を踏まえたスタートカリキュラムの編成・実施や成長を見通した評価・改善などマネジメントの強化

- ・ 「幼小合同研修会」を開催し、小学校と各園の教諭が「幼児期に育ってほしい10の姿」を意識した教育の在り方を協議・交流するとともに、各エリアでの研修を通して、子どもの実態を踏まえたスタートカリキュラムの編成・実施につなげました。

(4) 高校等や地域企業と連携したキャリア教育の推進

- ・小・中学校すべての学校において、キャリア・パスポートの活用と引継ぎを行っているほか、小学生の進路を見据えた高校見学、高校教員と小・中学校教員合同による授業改善研修を実施しました。また、職場見学・職場体験等の進路にかかわる啓発的な体験を実施し、主体的な進路選択に向けた意識の醸成を図りました。

■推進指標

指 標		R4	R5	目標値
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（％）	小	83.6	83.9	85
	中	70.1	68.2	85
近隣の小中学校と、教育課程に関する共通の取組を「よく行った」と回答した学校の割合（％）	小	17.4	26.1	50
	中	46.7	33.3	50
近隣の小中学校と、教育課程に関する連携した取組を行っているエリア（中学校区）の割合（％）		62.5	66.6	100
エリア内の幼稚園等の意見を踏まえてスタートカリキュラムを編成している小学校の割合（％）		100	95.7	100

評価

- ・ 中学で将来の夢や目標を持っている生徒が減少しているため、対策が必要である。
- ・ 近隣校で共通の取組や連携した取組に一部上昇もみられるが、更なる推進が必要である。

■今後の取組

- 1 9年間の学びの連続性を生かした系統性のある授業改善、交流及び共同学習の充実、総合的な学習の時間等におけるカリキュラム連携の促進を行います。
- 2 小中連携指定校の取組の充実のための指導主事による指導・助言及び情報発信を行います。
- 3 各園の教員等に対して特別支援学級や特別支援学級での教育活動について周知する研修等を実施し、各園とより連続性のある指導・支援につなげます。

トピックス

■開成中学校区エリアの小中連携した授業改善の取組

小中の教職員が相互に校内研修に参加し、授業参観だけでなく、研究協議にも参加しました。小学校教員は、卒業後の子どもたちの姿をイメージした授業づくりに取り組めるように、また、中学校教員は、どのような学びを重ねて入学してくるかが見えるようになり、学びの連続性を意識できるようになりました。校内研修の年間計画を作り、計画的に職員が校内研修に参加できるような体制を整えました。



小中合同の授業研究をしている様子

■令和5年4月、義務教育学校「植苗小中学校」が開校！

小規模校のメリットを活かした柔軟な学校経営により、児童生徒一人一人の成長に合わせたきめ細かな指導を実現するため、併置校である植苗小学校・植苗中学校を「義務教育学校」としました。

小中9年間の一貫教育の実施を通じて蓄積された様々な知見については、苫小牧市型小中連携教育「Tomakomai All-9」への反映により積極的に普及を図ります。



R5.4.10 開校式

施策7

不登校児童生徒への支援の充実

■具体的な取組

1 魅力ある学校づくりと不登校児童生徒への支援の充実

(1) 魅力あるよりよい学校づくりの推進

- ・「不登校対策プラン」で学校と家庭が連携した未然防止の取組を推進しました。
- ・子どもの学ぶ意欲を高め、主体的な学びの実現のため、授業改善に取り組めるよう、研究委員会での取組等、授業改善策の発信に努めました。
- ・様々な行事、特別活動及び道德教育等、教育活動全体を通じて、児童生徒が互いを認め合い、自己有用感や自己肯定感を育む取組を推進しました。
- ・進学時のギャップを防ぐため、学びの系統性における小・中学校の連携を図りました。



【不登校対策プラン】

(2) 不登校の子どもを支援する体制の強化

- ・不登校の予兆を見逃さない教育相談の充実や組織的な体制を整備し、継続的な支援の推進を図りました。
- ・不登校対策モデル校では、支援員の配置により教室以外の居場所ができたことや、登校支援によって継続した学びを実現するなど、不登校児童生徒の改善の足掛かりとなりました。
- ・スクールソーシャルワーカーを1名増員の9名体制に拡充したことにより、担当校におけるきめ細やかな支援の充実を図りました。

2 学校、家庭、地域が連携・協働した不登校対策の推進

(1) 多様で適切な教育機会の確保

- ・市内3か所目となる教育支援センター「山なみ学級」を開級し、支援体制を拡充しました。
- ・教育機会の確保や社会的自立に向けた支援として「不登校児童生徒の支援に関する指針」を策定、運用を開始し、学校、市教委及びフリースクール等民間施設との連携によるきめ細やかな支援の充実を図りました。
- ・「学びの居場所さがし」を発行し、身近に相談できる機関を一覧表にまとめて掲載し、周知に努めました。



【教育支援センター山なみ学級】

(2) ICTを活用した適切な支援の促進

- ・社会的な自立の支援、学習意欲の維持・向上のため、自宅等でICTを活用して学習する場合の適切な学びの保障を目指し、「不登校児童生徒の支援に関する指針」の運用を開始しました。

■推進指標

指 標		R4	R5	目標値
「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合（％）	小	81.0	80.2	85
	中	75.9	78.3	85
「不登校児童生徒」数（人）	小	130	195	120
	中	363	393	240
30 日以上の長期欠席児童生徒において関係機関等からの支援を受けている割合（％）（R4.9 月末）	小	75.7	69.9	80
	中	56.4	61.9	80
不登校児童生徒のうち教育支援センター（適応指導教室）やフリースクール等において相談・指導や支援を受けた児童生徒の割合（％）（R4.9 月末）	小	1.2	3.6	30
	中	6.5	7.4	30
不登校の子どもに対し、オンラインによる学習指導や教育相談を実施している学校の割合（％）	小	0	7.7	100
	中	0	13.3	100

評価

- ・増加に歯止めをかけるため、不登校の背景・要因の分析や楽しさを感じる魅力ある学校づくりが必要となる。
- ・未然防止や支援強化とともに教員を孤立させない組織的な対応を検討する。

■今後の取組

- 1 各事業における効果の検証について不登校対策研究員会を新たに設置し、実際に支援を行っている「教職員からの視点」を取り入れ、より効果的な支援の方策について検討します。
- 2 不登校児童生徒数は増加の一途を辿っていることから、改めて要因を多面的・多角的に分析し、未然防止や欠席の長期化している児童生徒に対する有効な対策を検討します。
- 3 教育機会の確保に向け、不登校児童生徒に向けた支援の周知徹底を図ります。また、オンラインによる学習指導の手法や効果的な活用について、研究を進めます。
- 4 地域や保護者に向けた不登校児童生徒に対する寄り添い方や接し方のあり方について、外部有識者からの視点も踏まえ、考える機会を設け、社会で支える意識の醸成を図ります。

トピックス

■ ～「みんなの笑顔」を支えたい～「学びの居場所さがし」



「不登校の子どもたちが学校以外に学べる場所ってどんなところがあるのだろう？」

地域や保護者の方に、公的機関としての教育支援センター、民間のフリースクール等民間施設の紹介をするため、苫小牧市教育委員会が作成した資料です。

市民のみなさんにも広く知ってもらいたいと考え、協力を得ながら、コミセン、児童センターや市内の公共施設等の窓口に置かせていただいているほか、市HPにも掲載しています。

また、最後のページには「悩みごと相談窓口一覧」も掲載しております。

施策8

学校と地域の連携・協働の推進

■具体的な取組

1 家庭、地域の教育力を生かした学校づくり

(1) 家庭教育力を高める啓発と協働

- ・家庭教育情報紙「ほーむ&すくーる」を5回発行し、家庭教育に係る情報や今日的な教育課題について発信しました。
- ・「保護者向け一斉情報配信システム」を活用し、市教委から部活動の地域移行や長期休業中のイベントなど、家庭に必要な情報提供を行いました。
- ・子育て研修会を胆振東部PTA連合会とともに主催し、ネット社会における子ども達への対応や自己肯定感の育み方等について意見交流を行いました。

(2) 地域とともにある学校づくりのための推進体制の構築

- ・市内全地区（小中学校区）でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、各地区で行った事例の収集および学校運営協議会への補助金の交付を行いました。
- ・通学路交通安全プログラムに基づき、学校から報告のあった通学路の危険箇所の点検を関係機関とともにに行い、危険箇所の対策を検討、通学路の安全確保に努めました。

2 社会との連携・協働による教育活動の構築

(1) 主体的に地域に関わる児童生徒の育成

- ・苫小牧港開港60周年を記念した出前授業を全小学校で実施したほか、地元企業等の協力により、ふるさと教育を推進しました。
- ・市危機管理室と連携し、防災かるたやD○はぐなどを体験する「一日防災教室」を実施しました。
- ・外部人材を活用し、性に関する正しい知識を学ぶ「性教育」を実施しました。



【出光ふるさとプロジェクト】

(2) 多様な学習ニーズに対応した連携・協働体制づくり

- ・学校運営協議会において、「しいたけ駒うち」「伝統芸能の継承」「かんじき体験」など、地域の自然環境や人材を活用しつつ、体験的学習の推進を図った。あわせて特色ある教育の推進のため、学校運営協議会へ補助金の交付を行いました。



(3) 部活動の地域移行への協議

- ・中体連専門委員長を交えた地域移行の方策を検討しました。
- ・苫小牧型部活動地域移行ロードマップを策定しました。
- ・とまこまい型部活動地域移行ビジョンを策定しました。
- ・競技連盟、団体との情報共有及び活動支援に係る協力を依頼しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に、「参加してくれる」と回答した学校の割合（％）	68	62.4	85
コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、上記の指標にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を「行った」と回答した学校の割合（％）	47	76.9	85
地域や社会をよくするために何をすべきかを「考えることがある」と回答した児童生徒の割合（％）	43	69.2	60
地域の人材や施設を活用し、地域の自然・文化・歴史等を理解する体験活動の実施（全学年で実施した割合　％）	小	56.5	78.3
	中	68.8	60
指導計画の作成に当たり、「教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部資源を含めて活用しながら作成している」と回答した学校の割合（％）	小	100	100
	中	86.7	93.3

評価

・町内会やPTA活動の縮小などにより、地域の見守りや学習支援など支援の全体数は減少している印象があるが、一方でコミュニティ・スクールの全校実施などにより地域との活動が大幅に上昇し、児童生徒の地域や社会に貢献する意欲向上の要因となった。

■今後の取組

- 1 地域や学校での取組内容を踏まえ、家庭における教育力向上につながるような、記事や情報共有する際の内容の精選を図っていきます。
- 2 地域とともにある学校づくりを推進するため、令和5年度に各学校運営協議会が行った教育活動を収集し、活用事例集を作成します。
- 3 令和6年度中に一部競技種目で拠点校方式を導入するために、競技種目ごとのチーム編成や運営方法を決定するほか、保護者向け説明会等の実施を行い、導入に向けた合意形成を図ります。
- 4 令和7年度以降の段階的な地域移行実現に向けて、学校、地域、スポーツ・文化団体をはじめとする関係機関と協議継続し、個人競技種目の完全地域移行及び各種スポーツ競技、文科系種目の地域移行を推進します。

トピックス

■苫小牧港開港60周年記念事業 - みなとの授業



出前講座を受ける児童の様子

開港60周年記念事業として、苫小牧港管理組合による出前講座が市内全小学校で開催され、苫小牧港の歴史や役割、北海道民の生活にどのように港が関わっているかなどについて、クイズ形式で楽しく学ぶとともに、北日本最大の国際貿易港の一面を持つ苫小牧港のスケールの大きさに感心していました。

施策 9

学びのセーフティネットの構築

■具体的な取組

1 多様な学習機会の提供や就学支援の充実

(1) 学びの機会の保障

- ・不登校児童生徒の社会的自立と学びの保障のため、教育支援センターの市内3か所目となる山なみ学級（旧山なみ分校校舎）の運用を令和5年度から始め、より通級し易い環境を整えました。
- ・不登校児童生徒により多様な学びの環境を提供するため、令和5年4月より「不登校児童生徒の支援に関する指針」の運用を開始し、フリースクール等民間施設に通う児童生徒、ICT機器を活用した学びを進め、利用する児童生徒が増加しました。

(2) 就学に係る支援の推進

- ・経済的支援を必要とする家庭に学用品費や給食費の援助のほか、卒業アルバム（令和5年度実績：340人、3,297,460円）、英検受験費用（令和5年度実績：25人、117,000円）を支給するなど就学援助を実施しました。
- ・多子世帯への給食費無償化の継続実施（令和5年度実績：延べ2,611人、11,608,659円）を行いました。
- ・教材費等について、各学校で使用する教材の必要性を十分に検討し、購入にあたっては、複数の業者から見積もり、金額等比較検討したうえで決定するなど、軽減に努めました。
- ・安心した学校生活を送ることができるよう、学校トイレに生理用品の配備促進を行いました。
（小学校 17校／23校・中学校 14校／14校）

【就学援助の認定者数・支給額の推移】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認定者数（人）	1,729	1,562	1,487
支給額（円）	169,808,442	156,753,347	156,347,082

【特別支援教育就学奨励認定者数・支給額の推移】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認定者数（人）	334	335	335
支給額（円）	16,030,249	13,219,721	10,552,757

2 関係機関との連携による相談機能の拡充

(1) 悩みを抱える児童生徒の状況に応じた支援体制の充実

- ・市や道の教育委員会で運用している悩みごと相談に関わる電話、メール、SNS相談事業について、リーフレットの配付や説明を通して児童生徒に周知するとともに家庭情報誌等にも掲載し、保護者にも相談場所や相談方法について周知しました。
- ・各学校においては、学級担任等と日常的な教育相談やアンケート等から一人一人の悩みの状況を把握し、必要に応じて養護教諭やスクールカウンセラー等との相談体制を整え悩みに寄り添

いながら対応しました。

- ・スクールソーシャルワーカーを9名配置し、各学校の担当が巡回訪問を行い支援の状況を整理するとともに、本人や家庭の状況によって生活支援や福祉制度に具体的にしながら、個々の困り感の解消に努めました。
- ・ヤングケアラーの早期発見、早期対応のために児童生徒へのリーフレットによる周知や教職員向けの研修を実施し正しい理解につなげました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
教材費等保護者負担の軽減に取り組んだ学校（校）	-	37	37
スクールカウンセラー（SC）配置校数（校）	30	31	37
スクールソーシャルワーカー（SSW）の相談員数（人）	8	9	10
ヤングケアラーに関する教員研修を受講した学校の割合（％）	100	100	100

評価

- ・教材費の軽減や徴収方法を口座振替に変更するなど、各校で保護者の負担軽減に取り組んだ。
- ・SCの配置校・SSWの相談員を増やし、相談体制を強化した。

■今後の取組

- 1 経済的な理由や家庭の事情、子育てに関する相談等ができるように、家庭情報誌やリーフレット等で制度の周知徹底や関係部署との連携により、就学支援の更なる充実について検討を進めます。
- 2 不登校児童生徒対策研究委員会において、家庭との教育相談の在り方や不登校児童生徒への適切な支援について、道のスクールソーシャルワーカーや道外の不登校特例校の校長など有識者との研究協議を行い、その取組成果を市内の学校に発信します。
- 3 苫小牧市ヤングケアラー支援条例に基づき、児童生徒や教職員ヤングケアラーについての正しい知識をもてるよう周知や研修の機会を設けるとともに、関係機関と連携した対応を行います。
- 4 生理用品を学校トイレに設置していない学校に対して、設置しない理由等の調査を行い、設置に向けて、協議を進めます。

トピックス

■学校給食費の無償化（物価高騰に伴う子育て世帯支援）



物価高騰による保護者負担軽減支援として、6か月の学校給食費無償化を実施しました。（6，7，12，1，2，3月）

国の重点交付金の推奨メニューに学校給食費等の保護者負担軽減支援が位置付けられていたことから、子育て世帯支援として実施したものです。

施策 10

教育環境・学校施設・設備の充実

■具体的な取組

1 学校規模や地域の実情に応じた望ましい教育環境の整備

- (1) 苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づく取組の推進
 - ・樽前小学校改築事業について改築工事に着手しました。
 - ・大成小学校改築事業について基本設計を実施しました。
- (2) 苫小牧市立小中学校規模適正化「現状と課題」に基づく取組の推進
 - ・三光町全体を緑小学校校区へ統合し、通学の際に交通量の多いバイパスを横断する必要がなくなりました。
 - ・本市で初めての義務教育学校となる植苗小中学校を開校しました。
 - ・勇払地区の学校の在り方について、アンケート及び地域説明会を開催し、義務教育学校への方向性を示しました。

2 環境、健康、福祉に配慮した地域拠点としての施設の整備

- (1) ゼロカーボンシティに向けた学校施設の整備
 - ・大成小学校改築基本設計において、高断熱化や省エネ設備、太陽光発電設備の導入によるZEB化を目指し、環境負荷の低減に配慮した設計検討を実施しました。
- (2) コロナ感染症に対応する環境整備
 - ・学校保健特別対策事業費補助金を活用し、市内すべての小・中学校の普通教室及び保健室に対し、移動式クーラー597台を配備しました。
- (3) バリアフリー化の推進
 - ・沼ノ端小学校大規模改修事業において、老朽化した校舎及び屋内運動場の改修に合わせ、バリアフリースイレを整備しました。

3 働き方改革の推進

- (1) 人的支援など時間外勤務時間縮減に向けた学校運営体制の充実
 - ・学校の現状に応じて北海道教育委員会へ加配教員を申請し、学校の運営体制の充実を図りました。
 - ・時間外勤務時間が1か月あたり45時間を超える教員の割合が約6%縮減しました。
- (2) 部活動指導員の配置拡大
 - ・令和4年度の配置人数7名に対して新たに4名を増員、令和5年度は11名を配置しました。
 - ・部活動指導員の配置により、在校等時間から条例で定める勤務時間等を減じた時間について、1か月あたり45時間を超える教職員の割合を、運動部で18.6%、文化部で33.3%削減しました。
- (3) 通信環境の増強、校務用PCの更新により校務の効率化や事務作業に要する時間を削減
 - ・Wi-Fi機器（アクセスポイント）の更新による通信環境の充実や、校務用PCの更新に伴うパソコン性能の強化などにより、教職員における事務作業の効率化が図られました。
- (4) 教員の魅力を発信し、なり手不足を解消するインターンシップ受入の充実
 - ・市内、登別市、室蘭市の高校4校から計63名のインターンシップの受入を実施しました。
- (5) 部活動地域移行の推進
 - ・とまこまい型部活動地域移行ロードマップ及びビジョンを作成しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
バリアフリー化している学校（校）	15	15	20
時間外在校時間が1か月45時間以内となる教育職員の割合（％）	79.4	85.4	85
インターンシップ受入校（校）	22	24	37
部活動指導員数（人）	7	11	14

評価

- ・市教委の取組のほか、各校での様々な働き方改革により時間外縮減が進んでいる。
- ・教員のなり手不足解消のため、各校でインターンシップの受け入れが進んでいる。

■今後の取組

- 1 勇払小・中学校の義務教育学校への移行に向け、地域プランを策定し、住民説明会の開催により地域の理解を得るとともに、勇払地区にふさわしい学校施設や機能の検討を進めていく必要があります。
- 2 苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき整備を進めています。財源確保や事業費の平準化を図りながら、老朽化に伴う改築や改修を重点的に進めるとともに、ゼロカーボンやバリアフリー化なども含め、更なる教育環境の向上を目指します。
- 3 働き方改革の推進については、インターンシップなどで教員の魅力を発信するとともに、令和10年の完全移行を見据えた部活動の地域移行を円滑に進めるため、引き続き、部活動指導員を配置するなど、指導者確保に努めます。

トピックス

■樽前小学校改築工事に着手



新校舎完成予想パース

地域から様々なご意見をいただきながら調整を図り、令和6年度2学期の供用開始を目指して工事に着手しました。

トピックス

■勇払地区で小・中学校の在り方を協議し義務教育学校の方向性を決定！！

勇払地区の小・中学校のあり方についての地域説明会を、令和6年1月24日に開催しました。

当日は28人の地域にお住まいの方々に参加いただき、勇払小・中学校の現状や今後の取りうる学校運営形態、過去に実施したアンケート結果などを踏まえ、質疑を行いました。

説明会後のアンケートでは、多くの方から勇払小・中学校の存続を望む声、義務教育学校への移行を希望する声が聞かれました。



地域説明会の様子

施策 1 1

主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

■具体的な取組

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

(1) 子どもの健やかな発達と学びの支援

- ・乳幼児期から本に親しんでもらうきっかけづくりとして、ブックスタート「赤ちゃん、絵本のとびら事業」を実施しました。
- ・小学1年生に本を贈ることで、子どもたち自身が読書や本を選ぶ楽しさを知るきっかけと、家族や友だちと読書を通したコミュニケーションを育む、セカンドブック事業「いちねんせいへ、こころのたからばこ」を実施しました。

(2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援

- ・異年齢交流として、長生大学の学生と市内小学生との世代間交流で、けん玉やおはじきなどを行いました。
- ・公共施設の活用による学習機会の提供のため「子どものための行事案内」を毎月発行し、小中学校や幼稚園などへ提供しました。

(3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援

- ・様々な理由により、今一度学びなおしをしてみたいと考えている方や現在の学校教育に関心を持っている方などを対象とした学びの場として「ナナカマド教室」を開講、昼の部7回・夜の部6回実施し、延べ94人が参加しました。

(4) 長寿社会のニーズに合わせた学びの支援

- ・健康や生きがいを考える学習機会の充実として、北洋大学との連携講座や高齢者主張発表会などを開催しました。

(5) 障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援

- ・視覚や肢体に障がいのある方へ実生活でのパソコン活用の知識・技術の習得として「障がい者パソコン教室」をそれぞれ1教室、年間各15回開催しました。
- ・「身体障がい者文化教室」として、身体に障がいのある方への学習支援と社会参加の促進として、西洋陶芸などの2教室に支援しました。

(6) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援

- ・生涯学習や今日的課題に関心のある方への学習機会として「苫小牧市民塾」を開催し、61名が参加しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
ナナカマド教室受講者数（人）	16	17	32
障がい者 IT 学習支援事業受講者数（延べ人数）	131	124	130
赤ちゃん、絵本のとびら事業対象者への配付率（％）	74.1	—	80.8
出前講座（回）	336	405	280

評価

- ・ 出前講座などの事業において、コロナ感染症の5類移行により受講者数が前年度より増加したが、引き続き事業PRの強化が必要である。

■今後の取組

- 1 市民一人ひとりのニーズに応えられる生涯学習の選択肢を用意し、望む学びやライフステージに応じた学習機会の充実を推進するため、引き続き「セカンドブック事業」や「ナナカマド教室」、「障がい者学習支援事業」などの各種取組みや、関係機関等と連携し「出前講座」などの充実に努めます。

また、「第五次苫小牧市子どもの読書活動推進計画」に基づき、家庭での「うちどく（家読）」への支援など、子どもが本を読む機会の拡大を図っていきます。

トピックス

■ 第五次苫小牧市子どもの読書活動推進計画



子どもは、読み聞かせや自ら読書を楽しむことを通して、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、語彙力や創造力を豊かなものにしていきます。発達段階に即した読書活動は、乳幼児期に始まり、その後の豊かな人間形成や生きる力を身に付けるうえで極めて大切な取り組みといえます。そのため、子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、読書環境の整備と家庭・地域・学校等が連携し、子どもの読書活動を一層推進するため令和6年3月に策定しました。

施策12

いつでも、誰とでも学べる環境づくり

■具体的な取組

1 学習グループや企業・団体との連携

(1) 企業・団体と行政の連携と発展

- ・ 苫小牧市女性団体連絡協議会と共催し「苫小牧市民塾」を開催しました。
- ・ 苫小牧市パソコンボランティア友の会とのパートナーシップ協定による「障がい者パソコン教室」を開催しました。

(2) 協働による学習の推進

- ・ 苫小牧市文化団体協議会と協働し「苫小牧市民文化祭」を開催しました。
- ・ 地域や団体などと協働し「生涯学習だより」や「サークルガイド」を作成、「アーティスト・バンク」による情報提供と人材発掘によるつながりづくりに支援しました。
- ・ 二十歳の市民と協働し「苫小牧市はたちを祝う会」を開催しました。

(3) ボランティア活動の啓発と支援

- ・ 「PMF 苫小牧ボランティア友の会」の会議や学習会を開催するなど、PMF 2023 苫小牧公演の運営を担っていただきました。

2 ICTの活用による学習環境の充実

(1) 学習支援情報の収集・提供

- ・ デジタル環境に対応した情報発信の強化として、中央図書館では、利用が増加傾向にある電子書籍など「電子図書館サービス」の充実に努めました。
- ・ 生涯学習関連情報の収集と発信の強化として、生涯学習だよりによる情報提供（4・9月全戸配付）やサークルガイドの発行（年1回）、こどものための行事案内を発行（毎月）しました。

(2) 情報の共有化による学習支援ネットワークの展開

- ・ 文化交流センターなどの施設において、利用団体との意見交換会を実施しました。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

(1) 学校と地域の連携、地域活性化による学びの支援

- ・ 学校や地域社会の連携に向けた取組として「アウトリーチ推進事業」や「アーティスト・バンク」の活用を促しました。
- ・ コミュニティ・スクールの実践事例集作成のため、事例構成や資料収集に向けた準備を行いました。

(2) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画

- ・ 障がいのある方にパソコンなどの操作を支援するボランティア育成「障がい者とともに学ぶパソコンボランティア体験講習会」を開催し、支援の考え方やスキルを体験してもらいました。

(3) 高等教育機関などの講座や教室との連携

- ・「生涯学習だより」での情報提供や「北洋大学連携講座」、「とまこまい市民カレッジ」などの講座・教室と連携を図りました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
生涯学習関連講座開設数（件）	574	536	710
各施設の生涯学習関連講座受講者数（人）	5,940	6,234	10,000
アウトリーチ推進事業実施件数（件）	29	34	40
アーティスト・バンク登録数（人）	91	99	130

評価

- ・各施設の利用者や各団体の活動は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行もあり、順調に回復している。
- ・更なる受講者増に向け、引き続き団体などと連携、周知に努める必要がある。

■今後の取組

- 1 指導者やボランティアなどの人材育成や生涯学習意識の醸成のため「生涯学習だより」などによる情報提供を推進するほか、企業や高等教育機関などとの連携・協働により、多様で質の高い学びの環境を提供していきます。

また、生涯学習分野における人材の掘り起こしのため、新たな人材バンクを検討します。

トピックス

■アウトリーチ推進事業の取り組み

苫小牧市では、平成21年度より、市民が生涯学習や文化芸術の素晴らしさを知る機会や文化芸術活動の活性化、豊かな情操と専門的な技術を育むことを目的として「苫小牧アーティスト・バンク」にご登録いただいている方を派遣する「アウトリーチ推進事業」を実施しています。

読み聞かせや書道、コンピュータ、音楽などあらゆるジャンルで活躍しているアーティストを幼稚園や保育園、小中学校、町内会などに派遣し、ワークショップやパフォーマンスを実施しています。



中学生に対し電子紙芝居の作成を指導している様子

施策13

文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

■具体的な取組

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

(1) 生涯学習関連施設機能の充実

- ・学校教育活動に支障のない範囲で教室などを文化活動の場として開放する「文化学校開放事業」により、市内8団体が利用しました。

(2) 音楽やアートに関連する事業の展開

- ・「PMFオーケストラ演奏会」をはじめとした苫小牧音楽祭や苫小牧出身の脚本家、水谷龍二氏の芝居公演、八王子市姉妹都市締結50周年記念事業「八王子車人形」公演などの鑑賞型事業を実施しました。
- ・「苫小牧市民文化祭」や「苫小牧アートフェスティバル」の参加型事業を通して市民が交流する機会を提供しました。
- ・文化芸術の担い手や育成に向け、若手芸術家が活躍できる場の拡充や指導者などの人材育成のため「アウトリーチ推進事業」や「ジュニア ミュージック クリニック」などを行いました。

(3) 文化財の積極的な活用

- ・市民が歴史を理解するうえで貴重な財産である指定文化財等に親しむ機会として「文化財発見ツアー」などを開催しました。
- ・苫小牧市文化財保護審議会において、学芸員の解説で次期指定候補文化財を研究しました。
- ・指定文化財等の周知・広報のため「とまこまいの文化財」の冊子を改定しました。

トピックス

■ とまこまいの文化財



苫小牧市では、国指定史跡である静川遺跡のほか、国登録1件、北海道指定3件、市指定6件が次代に残すべき文化財として指定・登録され、その他にも指定はされていないものの貴重な文化財も合わせて保護と普及に努め、その一環として、文化財を広くPRするための紹介冊子を作成しています。

令和5年3月24日にタプコブ遺跡の「クマ意匠」と「鉄製品」が本市の指定有形文化財となったことなどから、令和6年3月に紹介冊子を更新しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
市民文化芸術振興助成件数（件）	16	16	20
市主催鑑賞型事業入場率（％）	53.7	55.0	75.0
市主催文化芸術鑑賞事業の実施数（回）	5	5	6
市民文化祭参加人数（人）	2,166	3,055	6,000
苫小牧アートフェスティバル ワークショップ参加者数（人）	616	1,070	1,000
文化財発見ツアー参加者数（人）	27	34	40

評価

- ・入場者数や各団体の活動は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行もあり順調に回復してきている。
- ・文化団体、サークル間の交流に、個人で活動する芸術家を加えることにより、文化芸術活動の活性化につなげる必要がある。

■今後の取組

- 1 市民が文化芸術に親しみつつ、芸術家が活躍できる場の提供のため、引き続き「苫小牧音楽祭」などの鑑賞型事業や体験型事業、「市民文化祭」や「苫小牧アートフェスティバル」などの参加型事業を実施します。
また、「アウトリーチ推進事業」や「市民文化芸術振興助成事業」などにより、芸術家の活躍の場と指導者の育成を促進・支援していきます。
- 2 市民が本市の歴史を知り、興味、理解を深めるため、文化財に触れる機会の提供と市内の貴重な歴史的文化遺産を積極的に指定し、次の世代へつなげるため「文化財発見ツアー」などの機会を確保するとともに、美術博物館と連携を図りながら指定文化財の指定と活用を進めます。

トピックス

■ 苫小牧市・八王子市姉妹都市締結50周年事業「八王子車人形」公演

苫小牧市・八王子市姉妹都市締結50周年の記念事業として、令和4年3月に国の重要無形民俗文化財に指定された「八王子車人形」の公演を令和5年11月17日に開催し350名が来場されました。

公演に先立ち勇払千人隊芸能保存会と勇払小学校及び中学校の児童生徒による太鼓や踊りが披露され、オープニングに花を添えていただきました。

また、前日には西川古柳座五代目家元 西川 古柳氏などによるワークショップも実施。

八王子市の伝統芸能に理解を深める機会となりました。





科学センター

■具体的な取組

施策1-1 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

- (1) 子どもの健やかな発達と学びの支援
 - ・未就学児を対象とした「プレスクール工作体験」を開催しました。
- (2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
 - ・日本宇宙少年団の活動を支援しました。
 - ・「科学ふれあい教室」「こどもの日工作教室」「文化の日工作教室」「木工教室」「電子工作教室」「こども環境工作教室」「プレスクール工作体験」「プログラミング教室」を開催しました。
 - ・小学校5年生を対象にした「科学センター学習」を実施しました。
- (3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
 - ・外部講師と科学などをテーマに交流する「サイエンス・カフェ」を開催しました。
 - ・ミールや宇宙などについて解説する「ミールガイド」を開催しました。
- (4) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援
 - ・出前講座「移動科学センター」「移動天文教室」等を実施しました。



施策1-2 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

1 学習グループや企業・団体との連携

- (1) 企業・団体と行政の連携と発展
 - ・トヨタ自動車（株）と共催による科学工作教室を開催しました。
 - ・苫小牧発明研究会、日本無線（株）と共催による電子工作教室を開催しました。
 - ・うとねっと苫小牧支部と共催による科学実験教室を開催しました。
- (2) 協働による学習の推進
 - ・「苫小牧科学の会」などと連携し、「青少年のための科学の祭典」を開催しました。
- (3) ボランティア活動の啓発と支援
 - ・日本宇宙少年団・鉄道OB会・苫小牧科学の会・うとねっと苫小牧支部との連携及び支援をしました。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

- (1) 学校と地域の連携、地域活性化による学びの支援
 - ・苫小牧発明研究会、日本宇宙少年団、宇宙航空研究開発機構などの協力による展示会、教室等を開催しました。

施策 1 3 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

(1) 生涯学習関連施設機能の充実

- ・実験室・工作室を利用した教室を開催しました。
- ・プラネタリウム等を利用した天体観測及び解説（星空観望会）を実施しました。
- ・展示物を利用した宇宙開発技術や科学技術の解説を行いました。
- ・指導員を配置し、ミールの解説や天文・理科に関する相談に対応しました。
- ・ミールや宇宙などについて解説する「ミールガイド」を開催しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
利用者総数	94,330	93,423	110,000
プラネタリウム・天文	8,867	12,446	14,000
科学センター学習利用学校数（市内小学校 23 校）	23	22	23
移動科学センター（出前講座）実施回数	10	14	25
移動天文教室実施回数	1	13	20
科学工作教室の実施回数	26	29	30
青少年のための科学の祭典入場者数	184	803	1,000

評価

- ・利用者数は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行もあり順調に回復している。
- ・利用者数は回復傾向にあるが、定員に満たない教室・講座が増えている。

■今後の取組

- 1 実験・工作教室、センター学習、移動科学センター（出前講座）など各種教室の充実化を図ることにより、子どもから大人まで科学やものづくりに対する興味を高めます。
- 2 学校や企業・団体等との連携を強化し、施設としての機能充実に努めます。
- 3 ホームページやSNS等を活用し、事業の周知に努めます。

トピックス

■青少年のための科学の祭典



令和5年9月2日に、苫小牧科学の会主催の「青少年のための科学の祭典 苫小牧大会2023」が苫小牧市科学センターにて開催されました。市内外の高校教員や生徒、苫小牧高等専門学校の学生、日本宇宙少年団苫小牧分団のメンバーや企業など約40人が16ブースを出展し、会場を訪れた小中学生や保護者などが実験などを通して科学に親しんでいました。

※生涯学習推進基本計画で掲げる施策の展開番号を、表記の都合上一部繰り上げています。



美術博物館

■具体的な取組

施策1 1 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

- (1) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
 - ・本市の歴史等について学習するため、小学校4年生を対象とした郷土学習を実施しました。
 - ・中学生が仕事について学ぶ機会として、市内の中学校の職場体験を受け入れ、館内の見学や歴史資料を用いた実習を行い、学芸員の仕事について理解を深めてもらいました。
 - ・無料開放日に多彩なイベントを開催し、美術博物館に親しんでもらう機会を創出しました。
- (2) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
 - ・郷土の自然や歴史、文化芸術について、様々な分野の講師を招き、大学講座を実施しました。
 - ・地域の自然や歴史、文化について理解を深めてもらうため、展覧会を5回開催しました。
- (3) 障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援
 - ・地域の自然や歴史、文化等の様々な分野の展覧会の開催に合わせた解説会を実施しました。
- (4) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援
 - ・苫小牧の歴史へ親しみをもってもらうため、歴史見学会を実施しました。
 - ・苫小牧市内の生き物の観察や標本づくりを体験する自然観察会を実施しました。

施策1 2 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

1 学習グループや企業・団体との連携

- (1) 企業・団体と行政の連携と発展
 - ・出光興産株式会社北海道製油所と連携した特別展を開催し、美術博物館開館以来、最多来館者数を更新し、12,433人が来館しました。
 - ・NPO法人樽前arty+（アーティ プラス）と連携し、子ども広報部「びとこま」の活動を実施しました。
 - ・北海道大学苫小牧研究林と連携し、日胆地区博物館等連絡協議会研修会を開催しました。
- (2) ボランティア活動の啓発と支援
 - ・ボランティアを公募し、展覧会開催時の監視活動やイベント補助に協力してもらいました。
 - ・美術館友の会等と連携し、展覧会開催時の監視活動やポスター等の発送準備、市民向け講座開催時の会場提供など様々な取組を連携して行いました。



【「びとこま」活動の様子】

2 ICTの活用による学習環境の充実

- (1) 学習支援情報の収集・提供
 - ・美術博物館公式のSNSを活用した情報発信を行いました。
 - ・中央図書館へ美術博物館だよりなどのデータを提供し、電子図書館で活用してもらいました。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

- (1) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画
 - ・郷土への理解を深めてもらうため、小学校や町内会等に出前講座や学芸員の派遣を実施しました。
- (2) 高等教育機関などの講座や教室との連携
 - ・北洋大学へ非常勤講師として学芸員を派遣しました。

施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

(1) 生涯学習関連施設機能の充実

- ・当館の機能や学習資源を知ってもらい、教職員の館活用のための情報を提供するため、小中学校の夏季休業中に教育研究所と連携し、教員のための博物館の日を開催しました。

(2) 音楽やアートに関連する事業の展開

- ・苫小牧アートフェスティバルと連携して美術博物館祭を同時開催し、ワークショップ等の実施による制作体験や学びを通して、当館の活動に親しむ機会を創出しました。
- ・特別展「出光美術館近代美術名品選－四季が彩る美の世界」会期中に開催された出光興産株式会社北海道製油所が主催するみらいを奏でる音楽会に合わせて夜間開館を実施しました。

(3) 文化財の積極的な活用

- ・特集展示やロビー展示、子どもの日など時季にちなんだ所蔵資料の展示を行いました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
利用者数（人）	35,173	39,926	30,000
アンケート結果（満足度）（％）	91.4	84.1	85.0
一日当たりの利用者数（人）	114.2	129.2	97.4
ボランティア登録者数（人）	41	44	60
ボランティア研修会（回）	6	8	10

評価

- ・特別展「出光美術館近代美術名品選」などの開催により、目標値を上回る利用者数を達成できた。
- ・展示内容、解説に関する満足度が減少しています。より興味や関心、理解の促進につながる展示内容を目指す。

■今後の取組

- 1 令和4年度と令和5年度は、市内企業との連携による展覧会を開催することで目標値を大きく上回る利用者数を達成できました。令和6年度は利用者の減少が見込まれますが、効果的な広報活動を模索しながら、利用者の増加に取り組むとともに、学芸員の専門性を生かした調査研究や資料、地域にかかわる知見を充実させ、その成果を展覧会に反映することで、子供たちをはじめとする市民の知的好奇心に働きかけ歴史、自然、考古、文化芸術への学びを深めるための魅力ある施設となるよう努めてまいります。

トピックス

■出光興産株式会社北海道製油所操業50周年・苫小牧市美術博物館開館10周年記念事業 特別展「出光美術館近代美術名品選－四季が彩る美の世界」



解説会の様子

出光美術館のコレクションから、日本の近代美術における、草花や鳥、移ろう季節のイメージの様相をたどり、日本画、油彩画、工芸品による名品61点を紹介しました。新たに借用できた日本画の作品は、資料の性質上長期間展示することができませんが、前期・後期と展示替えをすることで、限られたスペース内でより多くの作品をご覧いただくことができました。その結果、過去10年で最も多い入館者数（12,433人）を達成することができました。

※生涯学習推進基本計画で掲げる施策の展開番号を、表記の都合上一部繰り上げています。



中央図書館（指定管理施設）

■具体的な取組

施策1 1 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

- (1) 子どもの健やかな発達と学びの支援
 - ・こそだて time や赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば、青空こどもとしょかん、スクールメール便「ブックちゃん」などを実施しました。
- (2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
 - ・調べる学習コンクールの実施や一日司書体験、ひとはこ図書館、YA世代交流事業などを実施しました。
- (3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
 - ・図書館文化セミナーの開催やビジネスコーナーの設置を行いました。
- (4) 障害のあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援
 - ・サピエ（視覚を通して文字を読むことが困難な方々に、点字、音声データなどを提供するもの）による情報提供事業、バリアフリー映画上映会を実施しました。アール・ブリュット in 苫小牧市立中央図書館を開催しました。

施策1 2 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

1 学習グループや企業・団体との連携

- (1) 企業・団体と行政の連携と発展
 - ・中央図書館とレッドイーグルス北海道が連携した「レッドイーグルス北海道選手おすすめ本」のリスト配布やパネル展の開催。「出張！図書館！」でのよみきかせをアイスホッケーアジアリーグ開催時の nepia アイスアリーナや科学センタープラネタリウム、北海道大学苫小牧研究林などで実施しました。苫小牧アートフェスティバル実行委員会や苫小牧子ども読み聞かせ文庫連絡協議会などと協働して、事業の企画運営を進めました。
- (2) ボランティア活動の啓発と支援
 - ・ボランティア養成講座の実施、読み聞かせボランティアとの情報交換を行いました。



2 ICTの活用による学習環境の充実

- (1) 学習支援情報の収集・提供
 - ・大阪府八尾市の八尾電子図書館との電子図書館資料交流展示で地域の独自資料を電子図書館上で展示しました。郷土情報に関する情報発信として、電子図書館に「とまチョップの苫小牧さんぽ アイスホッケー」を作成。電子図書館の蔵書の充実を進めています。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

- (1) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画
 - ・郷土文化セミナーの開催やボランティア養成講座を実施しました。

施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

- (1) 生涯学習関連施設機能の充実
 - ・図書館ツアー～潜入！図書館の「ウラ」やこそだて time を実施しました。
- (2) 音楽やアートに関連する事業の展開
 - ・アール・ブリュット in 苫小牧市立中央図書館、新春川柳展 in 図書館などを開催しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	目標値
入館者数（人）	246,001	225,827	231,657
新規利用登録者数（人）	1,796	1,733	1,768
利用者満足度（満足・やや満足）（％）	95.7	94.8	95
図書館貸出資料数（千冊）	744	725	930

※目標値は貸出冊数は総合計画、他は図書館運営計画による

評価

- ・図書館貸出冊数や来館者数を増やすための取組みとして、これまで図書館に触れる機会の少なかった市民へのイベントなど、本に興味を持ってもらう工夫や時節に合わせたテーマ展示などを多数実施したが、いずれの数値も前年度を下回る結果となった。今後も現在の利用者への、より良いサービスの提供はもちろん、新たな利用者の開拓により一層努めることが必要である。

■今後の取組

- 1 中央図書館については、アウトリーチ事業により一層力を入れ、待ちの姿勢ではない図書館を目指します。具体的には、外部施設等に図書館職員を派遣し、読み聞かせなどを行う「出張！図書館！」や、新たなニーズに対応する、図書館を駆け抜ける！などの取組みを更に拡大して実施し、図書館をより身近に感じてもらい、一人でも多くの人が日ごろから本に触れる機会を増やすための取組みを進めます。

■交換展示『東京都八王子市』姉妹都市締結50周年記念事業

東京都の八王子市と姉妹都市締結をして、今年で50周年になることを記念して、9月30日から10月26日までの期間、交換展示を行いました。

八王子市から送られた、『詳しい地図で歩く奥多摩・高尾500km』や『わがまち八王子 令和4年度版』、『目で見ると八王子の山車まつり』など、今の八王子の様子を伝える図書が展示され、多くの市民が手に取っていました。

また、苫小牧市からは、『ふるさとの山 樽前山と苫小牧の校歌』や『ハスカップ』、『苫小牧地方郷土資料集 NO.2～王子製紙の進出と人々』など30点の資料が八王子に届けられました。



※生涯学習推進基本計画で掲げる施策の展開番号を、表記の都合上一部繰り上げています。

※具体的な取組みについては、図書館要覧の記載事項を苫小牧市生涯学習推進基本計画に対応して転記したものです。